



ホームシアター用5.1chスピーカーシステム

NS-P220

取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください。

このたびは、ホームシアター用5.1chスピーカーシステム NS-P220をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

NS-P220の優れた性能を充分に発揮させると共に、未永くご愛用いただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

お読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

本システムは以下の製品で構成されています。

メイン・リア用スピーカー (NX-220P) X 4本

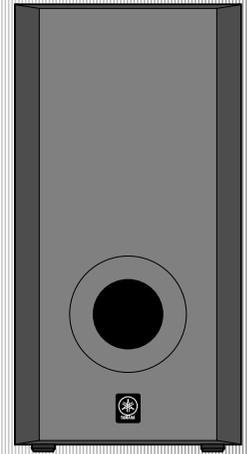
センタースピーカー (NX-C220) X 1本

スーパーウーファー (SW-P201) X 1本

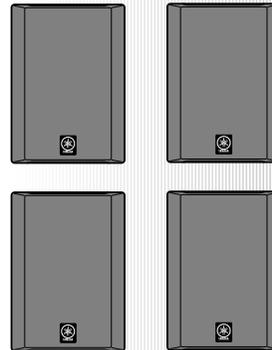
【NX-C220】



【SW-P201】



【NX-220P】



目次

特長.....	2	スーパーウーファーの使い方	16
安全上のご注意	3	各部の名称とはたらき	16
スピーカーの置きかた	8	オートスタンバイ機能を はたらかせる	16
スピーカー取り付け部品の使い方	9	音量バランスの調節	17
接続のしかた	12	故障かなと思ったら	18
基本的な5.1チャンネルの接続のしかた	12	仕様	19
スピーカーコードのつなぎかた	15	ヤマハホットライン サービスネットワーク	裏表紙

特長

ホームシアターサウンド

5.1チャンネルホームシアターの音場再生用に設計されたスピーカーセットです。メイン、センターおよびリアに同タイプのスピーカーを採用。各スピーカー間の音質バランスを均一に保ち、自然な音のつながりを発揮します。また、スーパーウーファーの重低音と各スピーカーの音のつながりが最適になるように設計されています。

スーパーウーファーには豊かな重低音を再生する、アドバンスドヤマハ アクティブサーボテクノロジー  搭載

スーパーウーファーの電源を自動でオン/スタンバイ状態に切替え可能

オートスタンバイ/感度スイッチの設定により、信号の有無を感知してスーパーウーファーの電源を自動でオン/スタンバイ状態に切り替えることができます。電源スイッチをそのつど押す手間が省けます。

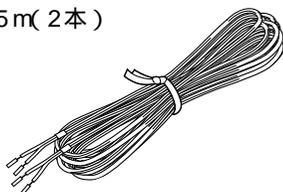
付属品がすべてそろっているか、確認してください。

スピーカーコード

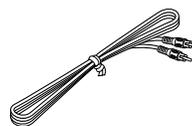
4m(3本)



15m(2本)

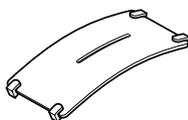


オーディオ接続コード
(1ピン、3m、1本)



スピーカー取り付け部品

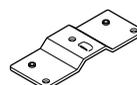
金具(Aタイプ、3個)



金具(Bタイプ、2個)



金具(Cタイプ、5個)



ネジ(8本)



蝶ネジ(2本)



⚠️ 安全上のご注意

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。また、記載のイラストはイメージイラストで、ご購入の製品とは形状が異なる場合がありますのでご了承ください。

絵表示の例



この絵表示は、気をつけなければならない内容（危険・警告・注意）を表しています。



この絵表示は、必ずしなければならない行為を表しています。



この絵表示は、してはいけない「禁止」を表しています。



この絵表示は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

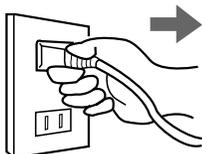


警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



煙が出たり変なにおいや音がしたら、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く
また、電源プラグの抜き差しがしやすいコンセントに接続する



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。



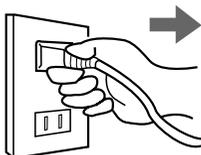
機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く



販売店に点検をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



落としたりして本機を損傷した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。



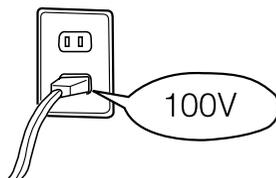
分解・改造を絶対しない
分解禁止
(キャビネットをはずすことも含む)



火災・感電・ケガの原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。



電源電圧交流100V以外の電圧で使用しない



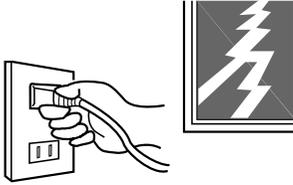
火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。



警告

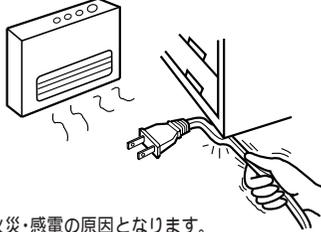
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ⊘ 雷が鳴っているときは電源プラグに触れない



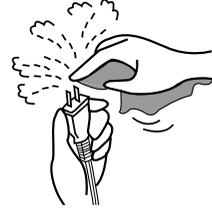
感電の原因となります。

- ⊘ 電源コード・プラグを破損するようなことをしない
(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる・ねじる、引っばる、束ねる、重いものをのせるなどしない)



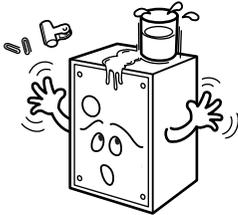
火災・感電の原因となります。
コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

- ❗ 電源プラグのほこりなどは定期的にとる



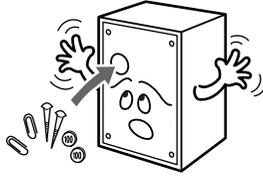
プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。
電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

- ⊘ 水や金属類を入れたり、ぬらさない



火災・感電の原因となります。
本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。

- ⊘ ポートやすきまなどから内部に金属類や燃えやすいものなどを押し込んだり、手を入れない



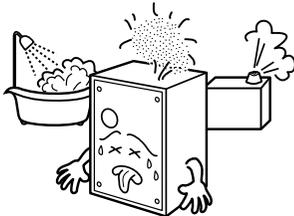
火災・感電・ケガの原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- ⊘ 本機をテーブルクロス等で覆わない



内部に熱がこもり、火災の原因となります。

- ⊘ 湿気やほこりの多い場所に置かない



加湿器を使用する場合は、本機との間に十分なスペースをとり、加湿しすぎないようにしてください。本機内部に結露が生じると故障するだけでなく、火災・感電の原因となることがあります。

- ❗ 放熱をよくするために密閉された狭い場所には置かない

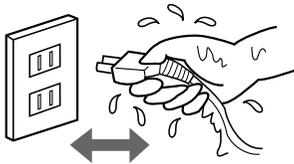


火災・故障の原因となります。ラックなどに入れるときは、本機の背面から10cm以上のすきまを開けてください。

⚠️ 注意

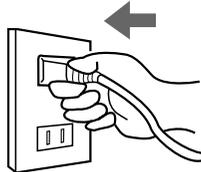
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

⊘ 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない



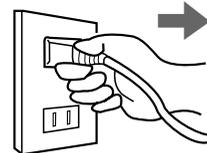
感電の原因となります。

❗ 電源プラグは根元まで確実に差し込む



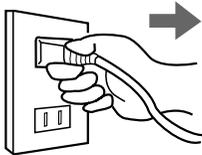
差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。
抜くときは必ずプラグを持ち、コードを引っばらないでください。
傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

Ⓞ 各機器を接続する場合は電源プラグを抜き、説明に従って接続する



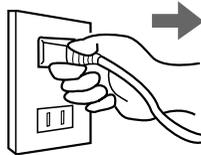
各々の機器の取扱説明書をよく読み、接続には指定のコードを使用してください。

Ⓞ 移動するときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグを抜き、外部の接続コードを外す



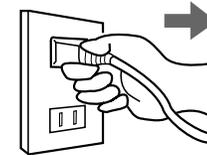
コードが傷つくと火災・感電の原因となります。

Ⓞ お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く



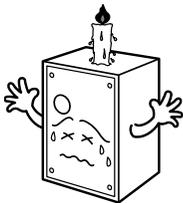
感電の原因となります。

Ⓞ 長期間使わないときは、必ず電源プラグを抜く



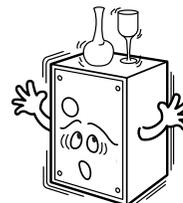
火災の原因となることがあります。

⊘ 火のついたローソクなどを置かない



火災・感電の原因となったり、火傷をする恐れがあります。

⊘ 陶器やガラス類などを置かない



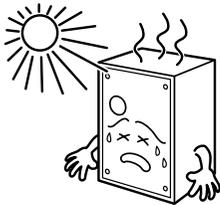
振動により落ちたり、倒れたり、割れたりするとケガをする恐れがあります。



注意

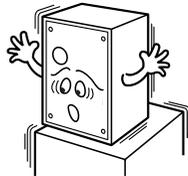
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

- ⊘ 直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かない



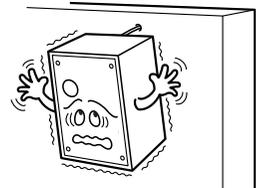
キャビネットや部品に悪い影響を与えたり、内部の温度が上昇し、火災の原因となります。

- ⊘ 振動のある場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない



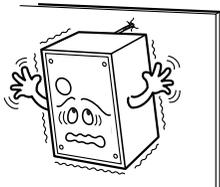
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

- ⊘ 壁に取り付ける場合、くぎなどの抜けやすいものは絶対に使用しない



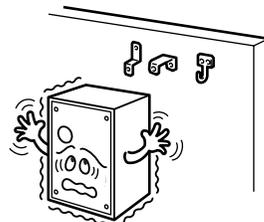
長時間の使用や振動でくぎが抜けて本機が落下しますと、けがをする恐れがあります。

- ⊘ リアスピーカーを薄いベニヤ板の壁や柔らかい壁には取り付けない



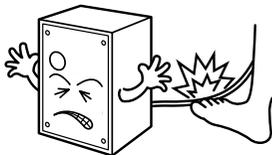
木ネジが抜けて本機が落下すると、けがをする恐れがあります。

- ⚠️ リアスピーカーを壁や天井に取り付ける場合は、必ず指定されたスピーカーブラケットを使用する



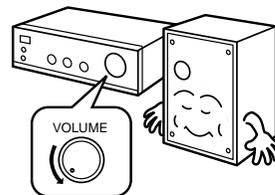
指定以外のブラケットを使用すると、落ちてけがをする恐れがあります。

- ❗ スピーカーコードは必ず固定する



コードを足や手に引っかけ、スピーカーが破損する原因となります。また、壁に掛けて使用する場合、落ちてけがをする恐れがあります。

- ⚠️ 再生をはじめる前には必ず音量を最小にする



突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ご使用になる前に、下記の注意事項を必ずお読みください。

本体のつまみ類に無理な力を加えたり、キャビネットに重い物をのせないでください。

テストディスクや電子楽器の信号、極端に歪んだ信号を大きな音で鳴らさないでください。スピーカーの破損の原因となります。

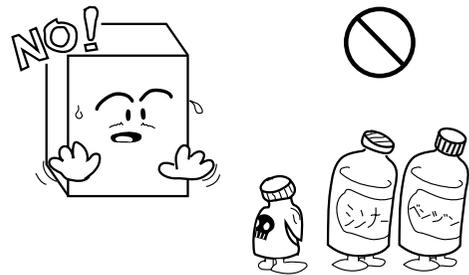
故障と思われるときは、すぐにスーパーウーファーSW-P201の電源プラグをコンセントから抜いてください。

フロッピーディスクやカセットテープなどの磁気媒体を、スピーカーの近くに置かないでください。データが破損することがあります。

お手入れについて

汚れは柔らかい乾いた布で拭き取ってください。ベンジン、シンナーなどで拭いたりすると、変質したり、塗料が剥げることがありますので使用しないでください。

また、接点復活剤はご使用にならないでください。接点復活剤はプラスチック部品を溶解します。

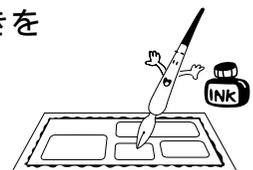


これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

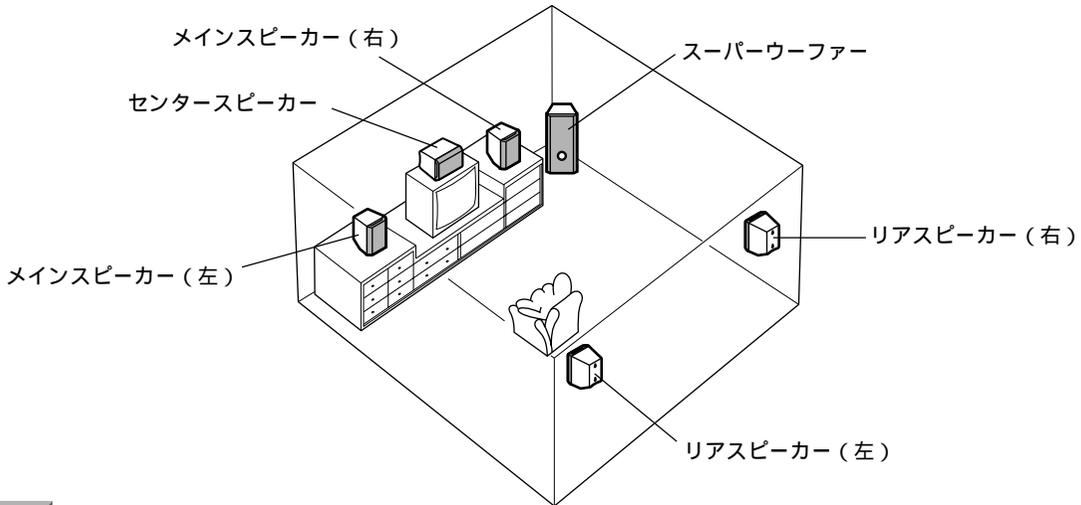
保証書の手続きを



お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをおこなってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、十分ご注意ください。

スピーカーの置きかた

本スピーカーシステムは、メイン・リア・センター・スーパーウーファースの合計6台のスピーカーで構成されています。それぞれのスピーカーは、下図のように設置すると最も効果的な音場が得られるように設計されています。



注意!

本システムは防磁設計となっていますが、コンピューターのモニターやテレビの近くに設置すると画像が歪むことがあります。そのような場合は、離してご使用ください。

メインスピーカー

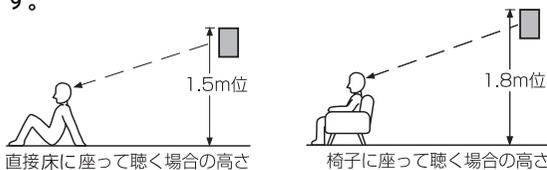
テレビの左右に設置します。

* スクリーンを設置している場合は、スクリーンの両脇に設置してください。

リアスピーカー

お部屋の状況に合わせて、棚に置いたり、壁に掛けることもできます。

スピーカーの高さは、床に直接座って聴く場合床から1.5m位、椅子に座って聴く場合1.8m位が適当です。



センタースピーカー

テレビの上に設置します。

テレビの上に設置できないときは、テレビの下のラック内などできるだけテレビ画面の近くに設置してください。

* スクリーンを設置している場合は、スクリーンの下中央に設置してください。

スーパーウーファー

左右どちらかの外側に設置します。壁の反射を防ぐため、少し内側に向けて置きます。低音の聴こえかたは、スーパーウーファーを置く位置や聴く位置によって異なりますので、設置場所を変えてお試しください。

スーパーウーファー設置上のご注意

スーパーウーファーは縦／横どちらの向きでも設置できます。本体前面および背面を下にして設置はできません。

スーパーウーファーはパワーアンプを内蔵していますので、背面からの放熱を妨げないよう、壁から10cm以上離して設置してください。

大音量で聴くと、家具や窓ガラスが共振したり、スーパーウーファー自体がビリついたりすることがあります。このような場合には、少し音量を下げてご使用ください。共振防止には、吸音効果が高い厚手のカーテンなどの使用をおすすめします。また、設置位置を変えてみると、共振が起こりにくくなることもあります。

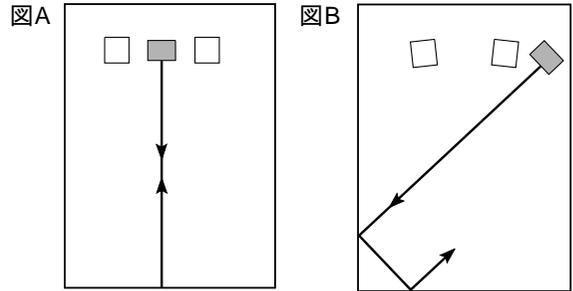
メモ

超低音域は

音楽信号の超低音成分は、波長が長いため、人間の耳ではあまり方向感覚がなく、無指向性に近い特性になります。したがって超低音域ではステレオ感もなくなるため、スーパーウーファーは1台でも超低音域再生の効果は得られません。

セッティング時の向きは

図Aのように正面に向けて設置すると、壁で反射した音がスピーカーから出てきた音とぶつかり、打ち消し合ってしまう聴こえにくいことがあります。これは部屋の中にできる定在波の影響によるものです。これを避けるため、スーパーウーファーは図Bのように斜めに設置すると効果的です。



- : メインスピーカー
- : スーパーウーファー

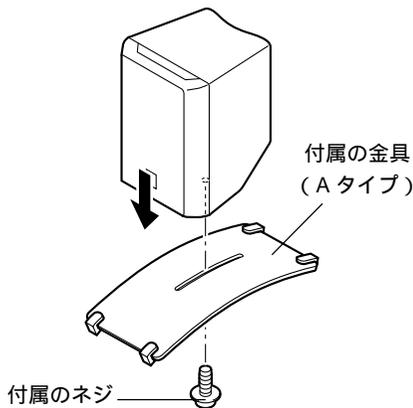
スピーカー取り付け部品の使い方

メインスピーカーとセンタースピーカーに付属の金具 (Aタイプ) を取り付ける

メインスピーカー、またはセンタースピーカー(またはその両方)に付属の金具Aタイプを取り付けると、スピーカーの設置に安定さが増し、転倒防止にも役立ちます。

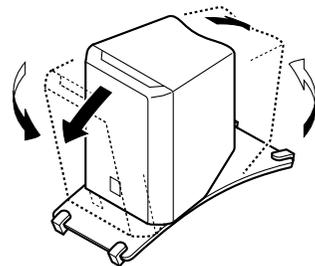
1

付属のネジを使用して、スピーカーの底面に金具 (Aタイプ) を取り付ける



2

スピーカーの角度を調節したあと、ネジを完全にしめる



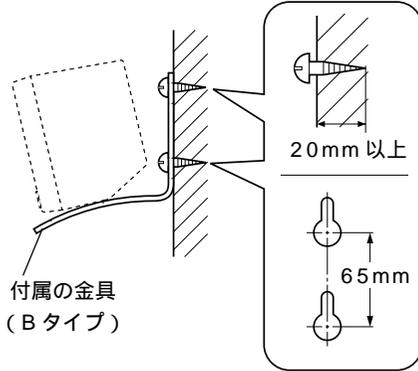
スピーカー取り付け部品の使い方

付属の金具（Bタイプ）を使用してリアスピーカーを壁に取り付ける

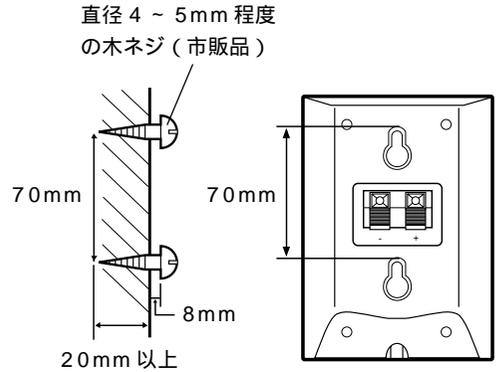
リアスピーカーを壁に掛けて使用する場合は、付属の金具（Bタイプ）を使います。

1

リアスピーカーを掛ける場所に2本の木ネジ（市販品：直径4mm程度）を取り付け、木ネジに金具を取り付ける。木ネジが、金具の狭い部分に確実に入っていることを確認してください。



スピーカーを直接壁に取り付けるときは、Bタイプの金具を使わずに、壁に2本の木ネジを取り付け、スピーカー背面の穴を利用して壁に掛けることもできます。

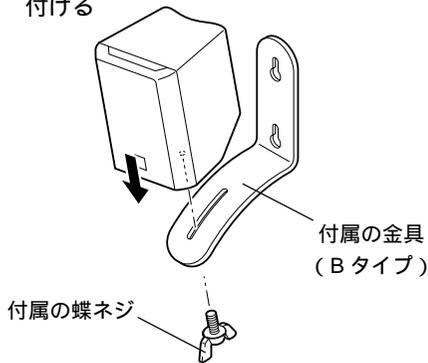


注意!

取り付け後は、スピーカーが確実に固定されているか確認してください。

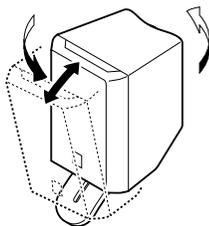
2

付属の蝶ネジで、スピーカーを金具に付ける

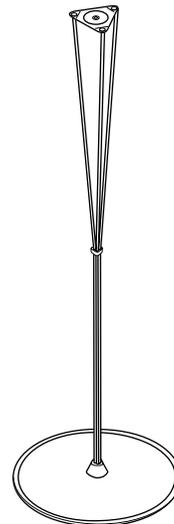


3

スピーカーの角度を調節したあと、蝶ネジをしめる



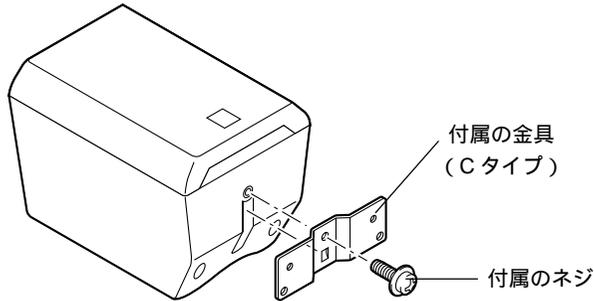
別売ヤマハスピーカースタンドSPS-AV1—
リアスピーカーにSPS-AV1を取り付けると、フ
ロアースタンドスピーカーとして使えます。
(2台1組)



天井吊り用 / 壁掛け用スピーカーブラケット(ヤマハSPM-5など)を使用するときは

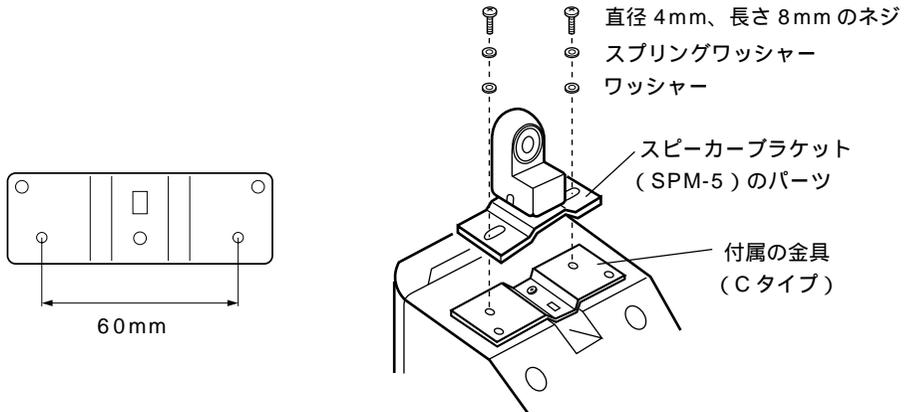
1

付属のネジで、スピーカー底部に付属の金具(Cタイプ)を取り付ける
金具の凸部分がスピーカー底部の溝に入るようにします。



2

付属の金具の穴(60mm間隔)を使い、スピーカーブラケットをネジで固定する
直径4mm、長さ8mmのネジとスプリングワッシャーおよびワッシャーをご用意ください。



取り付けの際は、使用するスピーカースタンドやスピーカーブラケットの取扱説明書もあわせてご覧ください。

注意!

(重要なご注意です。必ずお読みください。)

スピーカーの重量は1台約0.7kgです。ネジを止める場所には、しっかりとした壁または柱を選んでください。モルタルや化粧ベニア板など、はがれやすい材質の壁には取り付けないでください。ネジが抜けてスピーカーが落下するとけがの原因になります。

金具を釘や両面テープなどで取り付けないでください。使用中の振動で釘がゆるんだり、両面テープがはがれ、スピーカーが落下するとけがの原因になります。

スピーカーコードをスピーカーと金具の間に挟まないように注意してください。

スピーカーコードを足や手に引っかけて本機を落下させることのないように、コードは必ず固定してください。

取り付け後は必ず安全性を確認してください。

取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故等の責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。

接続のしかた

正しい接続のために

接続は、接続する全ての機器の電源コードを、コンセントから外したうえでおこなってください。接続する機器(アンプ、レシーバーなど)によっては接続方法や端子名が異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

端子の左、右(L、R)や、極性(+、-)を確認して接続してください。極性を間違えて接続した場合、不自然な再生音になるばかりでなく、故障の原因となりますので注意してください。接続が終わったら、正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

基本的な5.1チャンネルの接続のしかた

メイン、センター、およびリアスピーカーをアンプに接続するには、付属のスピーカーコードを使用してください。

* スピーカーコードには、識別表示用ラベル(下記参照)が付いています。各コードの識別表示を確認し、それぞれを、対応するスピーカーに使用してください。

FRONT L	左メインスピーカー用
FRONT R	右メインスピーカー用
CENTER	センタースピーカー用
REAR L	左リアスピーカー用
REAR R	右リアスピーカー用

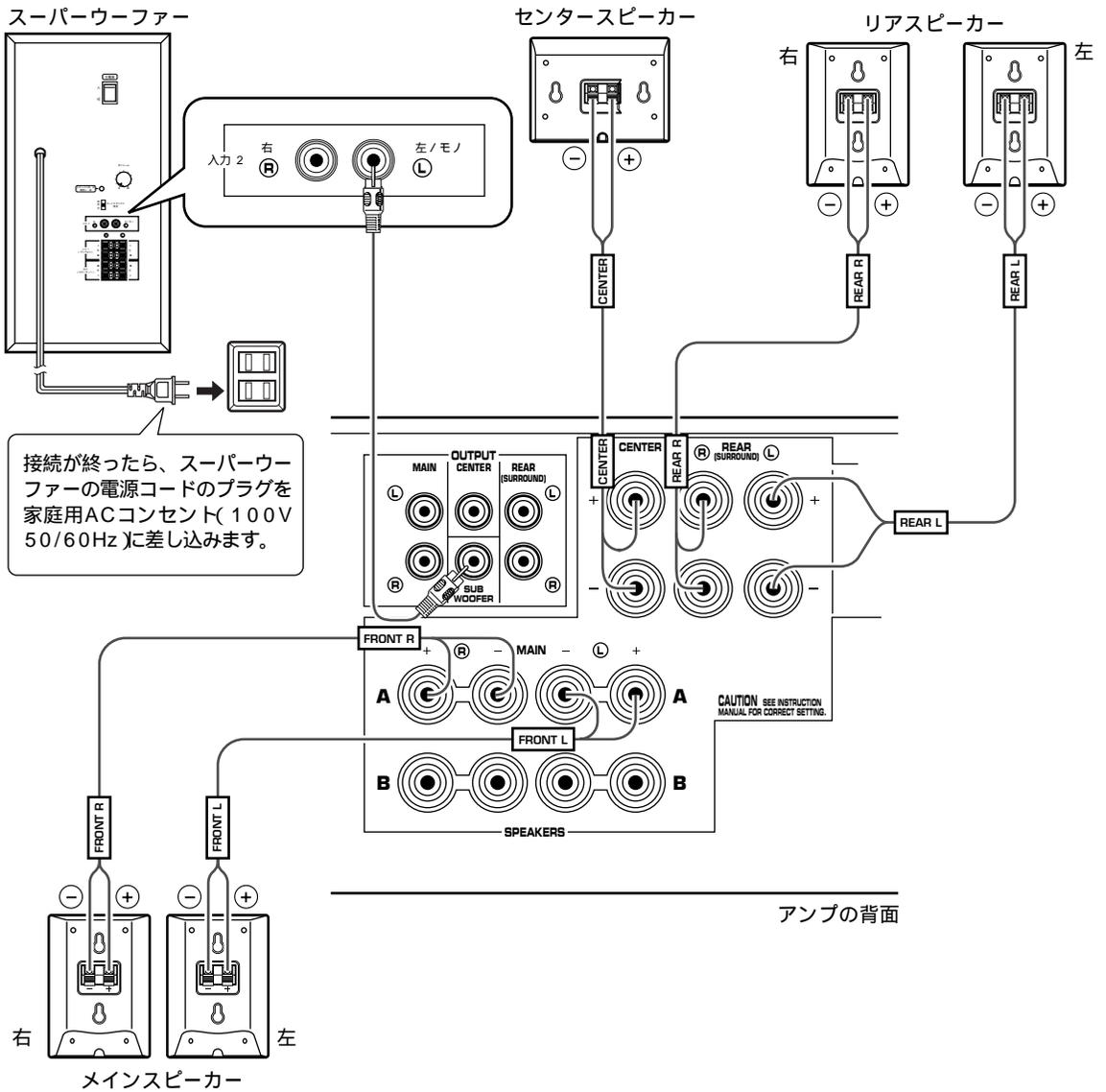
スーパーウーファーをアンプに接続するには、付属のオーディオ接続コードを使用して、スーパーウーファー背面の入力2 左/モノ端子をアンプ(またはレシーバーなど)のスーパーウーファー出力端子(ピンジャック)に接続します。アンプにスーパーウーファー出力端子がない場合は、それに代わるライン出力端子に接続してください。

* アンプのスーパーウーファー出力端子が2チャンネル(Ⓐ、Ⓑ)の場合は、スーパーウーファーの入力2 左/モノ端子をアンプ側のⒶ端子へ、入力2 右端子をアンプ側のⒷ端子へ接続してください。

アンプにスーパーウーファー出力端子か、またはそれに代わるライン出力端子がない場合は、アンプのスピーカー出力端子に接続することもできます。(14ページ参照。)

注意!

スーパーウーファーの入力2 左/モノ端子および右端子に入力した信号は、出力端子からは出力できません。



スーパーウーファーをアンプのスピーカー出力端子に接続する

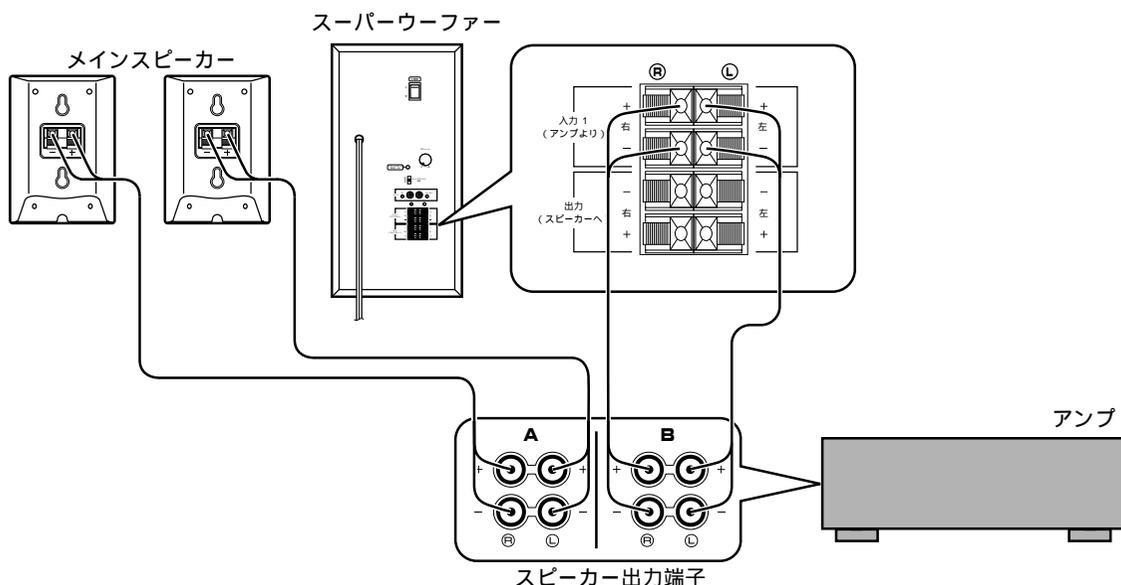
アンプにスーパーウーファー出力端子がない場合は、下記の方法で接続してください。

アンプにスピーカー出力端子が2系統(A、B)あり、2系統から同時出力が可能な場合

スピーカーコードを使用して、スーパーウーファーの入力1(アンプより)端子をアンプのスピーカー出力端子に接続します。メインスピーカーは、もう一方のスピーカー出力端子に接続します。

アンプ側で、スピーカー出力端子2系統から同時出力するように設定します。

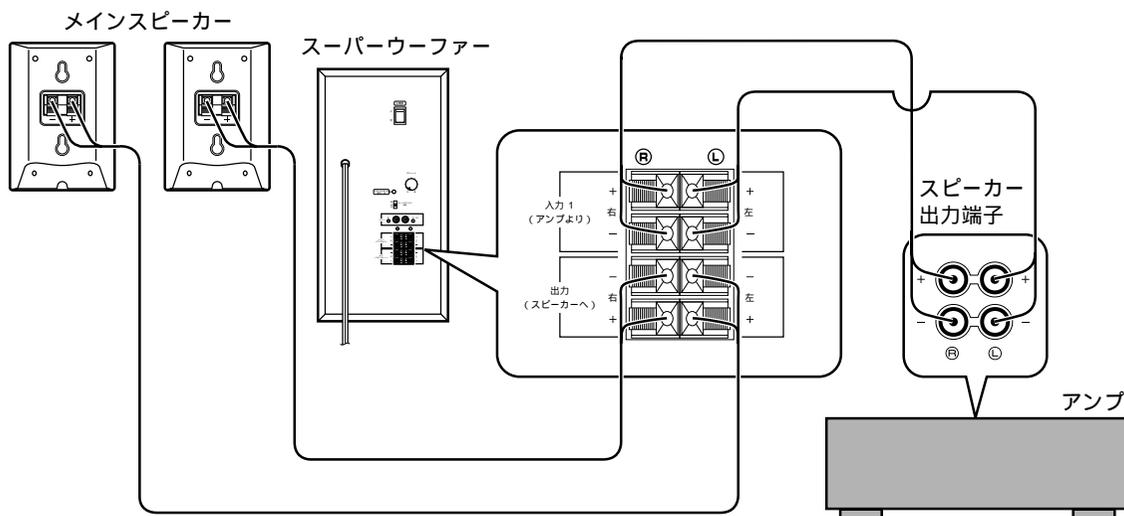
* アンプにスピーカー出力端子が2系統あっても、2系統から同時出力できない場合は、下記、「アンプにスピーカー出力端子が1系統だけある場合」の方法で接続してください。



アンプにスピーカー出力端子が1系統だけある場合

スピーカーコードを使用して、スーパーウーファーの入力1(アンプより)端子をアンプのスピーカー出力端子に接続します。メインスピーカーは、スーパーウーファーの出力(スピーカーへ)端子に接続します。

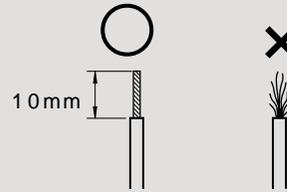
* メインスピーカーはスーパーウーファーを経由しての接続となりますが、音量、音質に影響を与えることはありません。



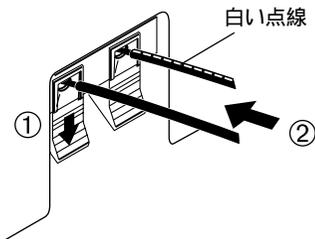
スピーカーコードのつなぎかた

接続する前に

スピーカーコード先端の絶縁部分(ビニール)を引き抜き、先をよじっておきます。(よじりながらビニールを引き抜くと芯線がバラバラになりません。)



メイン、センター、リアスピーカーにつなぐ場合
白い点線入りのコードを右側の+端子(赤)に接続し、
もう片方のコードを左側の-端子(黒)に接続します。

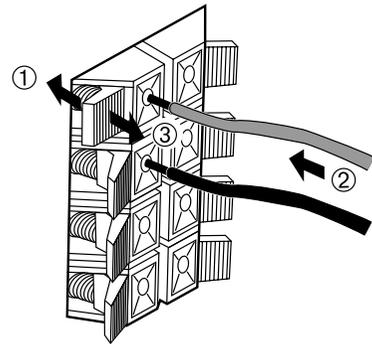


- ① レバーを下に押しながら
- ② 穴にスピーカーコードの芯線を差し込み、
レバーを戻す。(指を離すとレバーが戻ります。)

接続が終わったら、スピーカーコードを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。

スーパーウーファーの入力1または出力端子につなぐ場合

片方のコードを右側の+端子(赤)に接続し、もう片方のコードを左側の-端子(黒)に接続します。



- ① レバーを押しながら
- ② 穴にスピーカーコードの芯線を差し込み
- ③ レバーを戻す。(指を離すとレバーが戻ります。)

接続が終わったら、スピーカーコードを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。

注意!

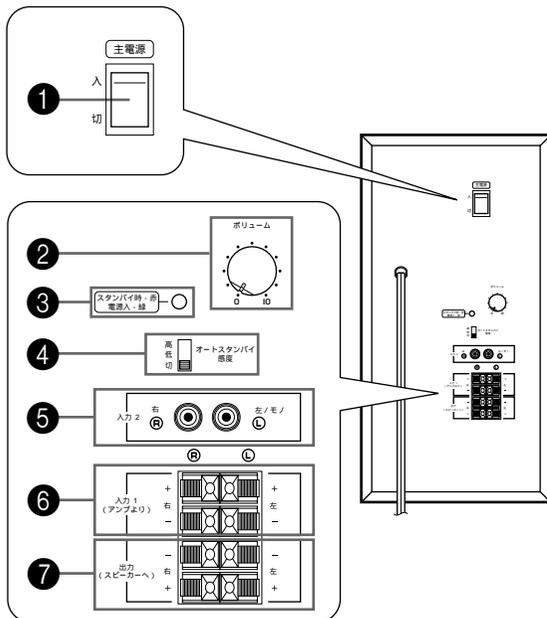
スピーカーコードはプラス(+)とマイナス(-)を間違えないように接続してください。

スピーカーコードはプラス(+)とマイナス(-)がショート(接触)しないように、しっかりと差し込んでください。しっかりと差し込まれていないと、音が出なかったり、雑音が出たり、スピーカーをいためる原因となります。

スピーカーコードは芯線部分だけを端子の穴に接続します。コードの絶縁部分(ビニール)まで差し込むと音は出ません。スピーカーコードは手や足に引っかからないよう、固定してください。

スーパーウーファーの使い方

各部の名称とはたらき (スーパーウーファーの背面)



① 主電源スイッチ

「入」にするとスーパーウーファーの電源が入り、インジケータ(③)が緑色に点灯します。オートスタンバイ機能がはたらいているときは、インジケータ(③)は赤色に点灯します。

② ボリューム

スーパーウーファーの音量を調節するつまみです。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

③ インジケータ

電源を入れると緑色に点灯します。ただし、オートスタンバイ機能がはたらいているときは赤色に点灯します。

④ オートスタンバイ/感度スイッチ

オートスタンバイ機能の入/切および感度を切り替えるスイッチです。オートスタンバイ機能をはたらかせる場合は、「低」または「高」にします。

⑤ 入力端子【入力2】

AVアンプのスーパーウーファー端子またはアンプのライン出力端子(PRE OUTなど)からの信号を入力する端子です。

⑥ 入力端子【入力1】

アンプのスピーカー出力の信号を入力する端子です。

⑦ 出力端子【出力】

⑥の入力端子【入力1】へ入力された信号をそのまま出力します。

メインスピーカーを接続する端子です。

オートスタンバイ機能をはたらかせる

オートスタンバイ機能は、使用中にアンプからの信号がなくなると自動的にスーパーウーファーをスタンバイ状態にし、再びアンプからの信号を検出すると自動的にスーパーウーファーの電源を入れる機能です。オートスタンバイ機能は、オートスタンバイ/感度スイッチ(④)が「低」または「高」の位置のとき、下記のようにはたらかせます。(通常は「低」の位置にします。)

アンプからの入力信号¹がない状態が7~8分²続くと、自動的にスタンバイ状態になります。(オートパワーオフ)

* このとき、インジケータ(③)は赤色に点灯します。



再びアンプからの入力信号¹を受けると、自動的に電源が入ります。(オートパワーオン)

* インジケータ(③)が緑色に点灯します。

1: オートスタンバイ機能が感知できる入力信号は、200Hz以下の低音成分(アクション映画の爆発音、ベース、バスドラムの音など)です。

2: 使用する環境によっては、周辺機器からのノイズなどの影響を受け、切り替わるまでの時間が変動することがあります。

メモ

オートスタンバイ機能は主電源スイッチ(①)が「入」になっているときにはたらかしません。

オートスタンバイ機能は、ある一定レベルの信号の有無により動作します。通常、オートスタンバイ/感度スイッチ(4)が「低」の位置で使用しますが、電源の入/切が切り替わりにくい場合は、「高」に切り替えてみてください。「高」にしても改善されない場合は、アンプ側の出力レベルを少し上げてみてください。

使用環境によっては周辺機器からノイズなどの影響を受け、オートスタンバイ機能がはたらいてしまうことがあります。そのようなときは、オートスタンバイ/感度スイッチ(4)を「切」にして、主電源スイッチ(1)で入/切してください。

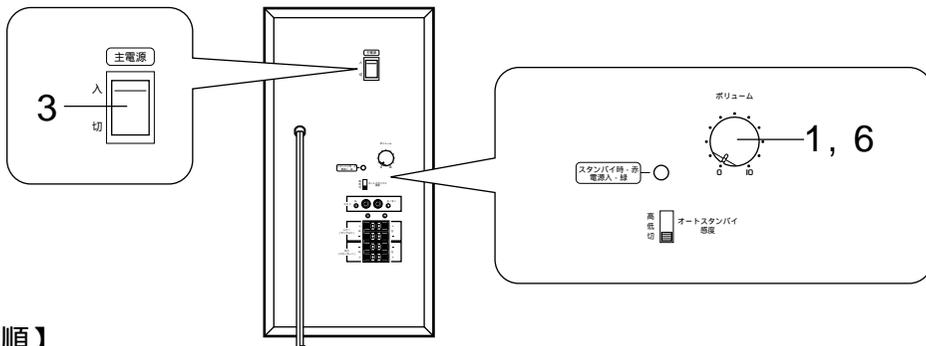
注意!

スタンバイ状態のとき、スーパーウーファーは微量ながら電力を消費しています。長期間スーパーウーファーを使用しない場合は、スーパーウーファー背面の主電源スイッチを「切」に設定するか、または電源プラグをコンセントから抜き、スーパーウーファーの電源を完全にオフにしてください。オートスタンバイ/感度スイッチ(4)を切り替えるときは、スーパーウーファー背面の主電源スイッチ(1)を「切」にしてください。

音量バランスの調節

接続が完了した後、効果的な低音再生をするために、メインスピーカーとスーパーウーファーの音が自然につながるように音量バランスを調節します。

一度バランスを調節した後は、アンプ側の音量調節だけで全体の音量を調節できます。



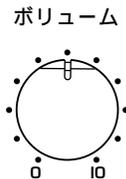
【調節手順】

1. スーパーウーファーのボリュームを最小(0)にします。
2. アンプの音量を最小にし、アンプおよび各機器の電源を入れます。
3. スーパーウーファーの電源を入れます。
4. 低音を含んでいるソースを再生します。
5. メインスピーカーの音量をアンプの音量調節で調節します。通常お聴きになる音量にします。(調節中はアンプのトーンコントロールなどはフラットにしてください。)
6. スーパーウーファーのボリュームを徐々に上げていき、メインスピーカーとの音量バランスを調整します。

スーパーウーファーがないときよりも若干低音が聴こえるくらいにします。

参考

本スピーカーセットを5.1チャンネルホームシアター用を使用する場合は、スーパーウーファーのボリュームつまみを「5(中央)」の位置にセットすると、最適な音量バランスが得られます。



注意!

アンプのトーンコントロール(BASS, TREBLEなど)やイコライザーを最大にして大出力でご使用になったり、市販のテストディスクなどに入っている20Hz~50Hzのサイン波や特殊な音(電子楽器、レコードプレーヤーの針先のショック音、低音が異常に強調された音など)を連続して大出力で加えることは、スピーカーの破損の原因となりますので絶対に行わないでください。また、低音が異常に強調された特殊なディスクでは、本来の音以外に異音が発生する場合があります。これは、スピーカーユニット自身の限界を越えた「バタ付き」現象で故障ではありません。そのようなときは、音量を下げてご使用ください。

故障かなと思ったら

下の表にしたがってもう一度確かめてみてください。そのうえで正常に動作しないあるいは下記以外の何か異常が認められる場合は、スーパーウーファーの主電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお問い合わせの上サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
音がでない。	接続が正しくされていない。または接続が不完全。	接続を確認してください。
音が小さい。または音像が安定しない。	スピーカーの接続で、LとRや極性(+、-)が合っていない。	スピーカーのLとRや極性(+、-)を正しく接続しなおしてください。

SW-P201のみ

スーパーウーファーの電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください。
	スーパーウーファーの主電源スイッチが「切」になっている。	主電源スイッチを「入」にしてください。
オートスタンバイ機能が突然はたらき自動的に電源が入ってしまう。	周辺機器からのノイズの影響を受けている。	スーパーウーファーを周辺機器から離して設置するか、スピーカーコードを置く位置を変えてみてください。または、オートスタンバイ感度スイッチを「切」にしてください。
ソースの再生が終わっても自動的にスタンバイ状態にならない。	周辺機器からのノイズの影響を受けている。	スーパーウーファーを周辺機器から離して設置するか、スピーカーコードを置く位置を変えてみてください。または、オートスタンバイ感度スイッチを「切」にしてください。
	オートスタンバイ感度スイッチが「切」になっている。	オートスタンバイ感度スイッチを「低」または「高」にしてください。
ソースの再生が始まって自動的に電源が入らない。	オートスタンバイ感度スイッチが「切」になっている。	オートスタンバイ感度スイッチを「低」または「高」にしてください。
	アンプからの入力信号が小さすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を上げてください。
	アンプのサブウーファー(スーパーウーファー)端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。
オートスタンバイ機能が突然はたらき自動的にスタンバイ状態になってしまふ。	アンプからの入力信号が小さすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を上げてください。
	アンプのサブウーファー(スーパーウーファー)端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。
低音が出ない。または小さい。	低音域が少ないソースを再生している。	低音域が入っているソースを再生してください。
	定在波の影響を受けている。	スーパーウーファーの設置位置を変えてみてください。
	アンプのサブウーファー(スーパーウーファー)端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。
音がでない。	スーパーウーファーのボリュームが最小(0)になっている。	ボリュームを右に回して音量を上げてください。
	アンプからの入力信号が小さすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を上げてください。
	アンプのサブウーファー(スーパーウーファー)端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。
音が割れる。	アンプからの入力信号が大きすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を下げてください。

仕様

メイン/リアスピーカー (NX-220P)

型名	NX-220P
型式	密閉型
スピーカーユニット	8cm コーン、防磁型 1.9cm バランスドーム、防磁型
許容入力	30W
最大入力	100W
インピーダンス	6
再生周波数帯域	140 Hz ~ 27kHz
出力音圧レベル	86 dB/2.83V/ m
寸法(幅)x(高さ)x(奥行き)	100 x 140 x 113mm
重量	0.7kg x 4台

センタースピーカー(NX-C220)

型名	NX-C220
型式	密閉型
スピーカーユニット	8cm コーン、防磁型 1.9cm バランスドーム、防磁型
許容入力	30W
最大入力	100W
インピーダンス	6
再生周波数帯域	140 Hz ~ 27kHz
出力音圧レベル	86 dB/2.83V/ m
寸法(幅)x(高さ)x(奥行き)	140 x 100 x 112mm
重量	0.7kg

スーパーウーファー(SW-P201)

型名	SW-P201
型式	アドバンスドヤマハアクティブ サーボテクノロジー方式
スピーカーユニット	16cm コーン、防磁型
アンプ出力	50W/5
入力感度	
入力1	1.2V
入力2	55 mV
入力インピーダンス	
入力1	4.7 k
入力2	12 k
再生周波数帯域	30 Hz ~ 200Hz
電源/電圧	AC 100V 50/60Hz
消費電力	32W (スタンバイ時: 6W)
寸法(幅)x(高さ)x(奥行き)	200 x 395 x 384mm
重量	9.3kg

付属品

スピーカーコード(4m)x 3
スピーカーコード(15m)x 2
オーディオ接続コード(1ピン、3m)x 1
スピーカー取り付け部品:
金具(Aタイプ)x 3
金具(Bタイプ)x 2
金具(Cタイプ)x 5
ネジx 8
蝶ネジx 2

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

* 「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

* 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスの依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買い上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

- | | |
|-----|---|
| 技術料 | 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費が含まれています。 |
| 部品代 | 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。 |
| 出張料 | 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。 |

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出ることがあります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター

TEL (0570) 01 - 1808 (ナビダイヤル)
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。

TEL (053) 460 - 3409

FAX (053) 460 - 2777

住所 〒430-8650

静岡県浜松市中沢町 10-1

ご相談受付時間 10:00~12:00, 13:00~18:00

(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-1-1-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



永年ご使用のAV製品の点検を!

こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。



ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/audio/>